

# 松本市市民活動 サポートセンター通信 No.7

発行元 松本市市民活動サポートセンター  
〒390-0874 松本市大手 3-8-13  
松本市役所大手事務所2階  
TEL/FAX 0263-88-2988  
E-mail support-center@support-center.jp  
URL http://www.support-center.jp

新年明けましておめでとうございます 今年も宜しくお願い申し上げます



## サポートセンター自主事業活動報告



### 第4回市民活動講座 「広報づくり（応用編）」

11月22日(水)に光合成プロジェクト LLP 代表伊藤昌輝さんを講師に迎え、参加者9名で開催しました。

30分間程、より効果的な広報を行なうコツや、今後さらに利用が進むと考えられる、インターネットを利用した広報活動についての講義が行われました。その後、各テーブルごとにワークショップリーダーの発表（ランダムに椅子の下にリーダー任命の付箋が貼られているというサプライズ）があり、AとBの2班に分かれてワークショップに移りました。

テーマを「松本のタグライン（最近の企業ロゴ等につけられている短い文章のこと）」とし、基礎編の内容を踏まえながら、※KJ法を用いて、コンセプトの整理、共有する言語の選択を行ない、最終的に各班でタグラインを作成して発表をしました。要所要所に講師の伊藤さんのわかりやすい解説が入り、1時間半の和気あいあいたワークショップになりました。

A班 またもどってくる。松本ずら

B班 遠いけどソバ 松本

いずれも力作（講師評）となりました。観光ポスター等のキャッチコピーにいかがでしょうか。（太田圭郁）

※ KJ法：文化人類学者の川喜田二郎氏(Kawakita Jiro)が考案した問題解決の技法のひとつ。無秩序な情報を小さい紙片に一つずつ書き込み、それらの紙片を整理することにより、新たな発想や共通点を発見し、問題解決のヒントや糸口を導き出す手法。



### 第5回市民活動講座 「地域ボランティアの集い」

12月3日(日)、松本市ボランティアセンター主催で、市民活動サポートセンターが共催する「地域ボランティアの集い」が、双葉の市総合社会福祉センターにおいて69名が参加して開催されました。

大桑村新田地区ホテル会の太田喜隆さん、新田芳之さん、平尾英一さんによる基調講演では、定年退職された男性達が地域の活性化に主体的に取り組み、成功を収めるまでの過程が紹介されました。

また、地域ボランティアの事例発表では、第3地区ボランティア部会代表の中澤智朗さんから、さまざまに悩みつつも前向きに取り組もうと努力している地域の事例や、ボランティアことぶき代表の山本ヤス子さんからは、いきいきと活動している地区の事例が発表されました。

最後の意見交換会では、大桑村社会福祉協議会の杉村信子さんがコーディネーターとなり、活発な議論が交わされ、中規模都市の問題点として、ボランティア機構の複雑さや、町会との連携等が挙げられました。特に地域単位だからこそ発揮できる団結の強さと機動力が注目されました。（太田圭郁）



## 高齢者福祉団体交流会を1月23日（火）午後6時30分から開催します！

市内で高齢者の生活支援や生きがい・健康づくりに関わる市民活動団体の相互理解を目的として、分野別交流会を市民活動サポートセンターで開催します。参加希望のかたはセンターまでご連絡ください。

◆特設展示コーナーで、団体の活動を紹介します！ ◆展示期間：1月14日(日)～2月11日(日)

## ウイメンズ・サポート



福祉関係の仕事に長年関わってきた代表の六井洋子さんはコミュニティビジネスを学ぶため大学へ。卒業後にしようと考えていた市民活動の構想を松本大学の講座でレポートにした。＜「女性リーダーの育成」と「子育ての質の向上」を目的とした市民活動を通して、コミュニティビジネスを確立する＞ その構想は、「白戸教授の勧めに乗せられて」予定より早くスタートした。「ウイメンズ・サポート」のはじまりである。

しかし、この2年間は試行錯誤の連続で、「情報集めから始まり、企画の立て方、交渉の仕方、広報に至るまで個人の負担が大きくて、運営の難しさを実感した」という。持ち前の行動力と仕事で培った人脈で乗り切ってきたが、「失敗もあったし、なかなかレポート通りにはいかなかったわ」と苦笑いする。

本年度、(社)生命保険協会の助成先に選ばれた子育て支援事業は、毎回定員を上回る申込みがあり、さまざまな企画が好評だ。会員それぞれが講座ごとに運営指揮をとる。会員も活動の中から学び、その経験が次に活かされている。「会の出入りは自由なんです。ここで力をつけて独立してやる人がどんどん増えれば良いと思うの」活動拠点が決まらない悩みも色々な人と出会えるチャンスと考える。法人格取得にもこだわらない。

「子育て中の家族、女性を元気づけたい」という思いは、手話コーラスの発表の場を提供したり、大学生の研修先を紹介したり、高齢者の居場所をつくったりと、分野を越えたものになっている。「人と人をつなぐこと。人を生かす場を提供し元気になってもらうことが私達“ウイメンズ”の活動ね」パワーアップした参加者・会員に支えられて団体は進んでいる。(小池史子)

### － 18年度 子育て支援事業をふいかえる －

支援事業最終回として、田辺庚先生(丸の内病院副院長)の基調講演と自由討論会を行ないます。

- ◆日 時:3月10日(土)10:00～11:30
- ◆会 場:松本市市民活動サポートセンター
- ◆対 象:子育て中の方、子育て支援者、託児あり要申込
- ◆問合せ:ウイメンズ・サポート(六井)  
TEL:090-2259-4804

## 「ボランティア交流集会」のお知らせ 松本市ボランティアセンターより

### ～「おたがいさま」の地域をめざして～

- ◆日 時:2月3日(土) 9:30～15:30 (受付9:00～)
- ◆会 場:松本市総合社会福祉センター (松本市双葉4-16)
- ◆主 催:松本市社会福祉協議会
- ◆共 催:松本市ボランティア連絡協議会
- ◆参加費:200円 (他に昼食代500円)
- ◆日 程:《第1部》 ステージ発表

男性コーラス、小学生の活動紹介劇、読みきかせ、楽器の演奏など

《第2部》 分科会 (昼食後、各会場に分かれて交流)

分科会テーマ

- ①地域で支えあうボランティア (身近な地域での活動事例や課題について)
- ②傾聴ボランティア (傾聴の基本やこつを学び、グループで体験)
- ③災害ボランティア (災害時、ボランティアは、どう動けばいいのか)
- ④趣味を生かしたボランティア (自分の趣味や特技を生かすには)
- ⑤男衆の底力を発揮しよう (男性の力をボランティア活動に生かすには)
- ⑥コミュニケーションづくり (楽しいレクリエーションを紹介)
- ⑦福祉の心を育てよう (小中学校での福祉教育を考える)

- ◆定 員:なし。ただし、事前に申込みが必要。その際、氏名、住所、電話番号、昼食の有無、希望分科会 (テーマ第2希望まで) をお知らせください。

- ◆申込み:松本市社会福祉協議会ボランティアセンター

TEL:25-7311 FAX:27-2239



## 森倶楽部21



取材のはじめに代表の永田千恵子さんは桜の木片で出来た手作りの名札をさげた。「作業の時にはいつもつけているんです。人の山に入って作業しますから」

学生時代からの山好き。知人に勧められて高山植物の案内ガイドを始めた。'97年の地球温暖化防止京都会議をきっかけに活動を始め、環境映画「草刈十字軍」の上映に携わった時、改めて身近な山が心配になり、森を見に行こうということになった。高齢になった山主さん達、厳しい林業、戦中戦後の過剰な伐採、無計画な植林で、山は想像以上に荒れていた。その後、有志の中から永田さんを中心に「森倶楽部21」が生まれた。

林業家の指導を受けながら、里山の間伐作業を進めている。会員の金井靖子さんは言う、「入会して2年になりますが、厳しいですよ。約束事もしっかりしているし、体力もいるし。でも充実しています。それにメンバーそれぞれが特徴を持っているんです。林業のプロ・大工・教師・自然観察指導員。これが活動の上手いく要因ではないですか」互いに学びあうことで、より安全で的確な森林づくりをしている。

しかし、「もっとも大切なのは、より多くの方が森の調査などの体験を通して、現状を知り、五感で感ずること。そして実際に動くことです」と永田さん。計測一



つ一つが森をつくる大切な役目と実感できる体験だ。

10年目を迎える今、県産材を使っての子供達への環境教育など、啓蒙活動に力を入れている。活動中に知り合ったチョウ類研究家の浜栄一先生と共にチョウを指標とした生物調査も進んでいて、山の状態も判りやすくなった。

今後は、市民と森林を結んでいくための企画や情報発信を考えている。ホームページは今年開設予定だ。

永田さんの松崎和紙の名刺はいつも手書きのコメント入りだ。“多様な生物の棲む森づくり”「いつも心と体で感じ、行動し考える人」を目指している。(小池史子)

◆問合せ: 森倶楽部21 (永田)  
TEL: 58-0360 FAX: 58-0360  
E-mail: nagatak@poa.matsumoto.ne.jp

### Q)市民公益活動とは？ 非営利とは？

### 基礎から学んで賢く活用 豆知識 ④

#### 一市民公益活動とは？

市民の自由で自発的な意思によって行なわれる、不特定かつ多数のものの利益の増進に寄与することを目的とする活動をいい、次のいずれにも該当しないものをいいます。

・利潤目的の経済活動 ・宗教的活動 ・政治的活動 ・選挙運動等の活動

「公益」とは広く社会一般の利益を指し、不特定かつ多数のものの利益であり、「私益」（自分のため）でも、「共益」（自分たちのため）でもない活動が「公益活動」になります。

#### 一非営利とは？

市民活動で言う、「非営利」とは、「非分配」を意味します。利益を上げてはいけなくて、利益があがっても構成員（社員など）に分配してはならない。利益は、団体の次の非営利活動をするための費用に充てること」となります。

松本市では“協働推進のための基本指針”の中で「市民活動」として次のように定義しています。「市民活動」とは、市民の自発的な意思に基づき、かつ広く市民生活の向上を目的とした非営利で公益的な活動で次の要件を備えた活動をいいます。

ア 市民が自らの自由意思に基づいた自主的・自発的な活動であること。

イ 誰に対しても開かれていること。

ウ 営利を目的としない活動であること。

エ 公益性のある活動であること。

オ 宗教・政治活動を目的とする活動でないこと。

※自発的・創造的なボランティア活動や個人による公益的活動、町会等の地縁型組織による活動、さらにはグループ・団体などの任意組織による活動も「市民活動」に含みます。



イベント・募集（※お問合せ・お申込みは、各主催団体へ直接お尋ねください。）

## 共同作業所「カフェギャラリーてくてく」職員を募集

精神障害者の地域生活支援として、「憩いの家アトリエてくてく」、「共同作業所カフェギャラリーてくてく」を運営しています。精神保健福祉活動に熱意と意欲のある方、お気軽にお問合せ下さい。会計事務ができればなお可ですが、詳細は面談にて。

又、ボランティアも同時募集中。

（グループホーム開設、憩いの家、カフェギャラリー）

◆問合せ：NPO 法人てくてく  
松本市元町2-7-13  
TEL：34-0611（桑原）



## ウイメンズ・サポート子育て支援講座 「つくってみよう！木のおもちゃ」



～お子さん、お孫さんに手づくりの木のおもちゃを～

◆日時：1月20日（土） 10:00～12:00  
13:30～15:30

◆会場：あがたの森公民館1-1

◆講師：みっぴー工房 岡本洋子さん

◆参加費：¥300（3種の中から1つ選んで作る）

◆定員：各回10組（要予約）

◆持ち物：エプロン、小さなお子様のいる方は、おやつ、飲み物、おんぶひも

◆問合せ：ウイメンズ・サポート（岡本）  
TEL:090-2257-6839

## サポートセンターからのお知らせ・募集

こんな使い方できます！センターをあなたの市民活動にもっと活用してみませんか？

《フリースペース（最大収容70人）》



↓ スクリーンやプロジェクターを使って、...



キッズコーナー利用でイベントもスムーズに →

《会議室（最大収容30人）》



↓ 会議に



《作業スペース》

印刷や製本、資料作成などに  
（印刷機・紙折機・裁断機・  
作業台など設置）



センターのボランティア相談窓口ご利用ください！《松本市社会福祉協議会より》

ボランティアセンターボランティアコーディネーター駐在

◆毎週火・金曜日 10:15～19:00◆

どんなボランティアがあるの？こんなボランティアをしたい！という方お気軽にお越しください。ボランティア保険の受付もしています。



ボランティアセンター福祉アドバイザー駐在

◆毎週水曜日 14:00～17:00◆

高齢者・障がい者支援に関わるボランティアをこれから始めたい方、されている方、相談に来ませんか？



市民活動サポートセンターホームページでいろいろな情報をGET!松本市市民活動サポートセンターHP

<http://www.support-center.jp> から

各分野のボランティア団体・センター登録団体の情報をみることができます。イベントや助成金情報も随時更新中。「センター予約状況カレンダー」で施設の空き状況も確認できます。

情報掲示板に活動PRやイベント案内等載せてみませんか？当センターまでお知らせください。

## 編集後記

市制100周年を迎える今年、記念グッズを販売している当センターに、たくさんの観光客や市民の皆さまが来られます。こちらで扱っている、ピンバッチ、アルプちゃんグッズ（缶バッチ・シャープペン・ボールペン・プチタオル・ストラップ）と種類の多さにびっくりされるようです。中でもストラップは、キューブに入ったアルプちゃんがカワイイと人気です。記念の年、センターからも盛り上げていきたいです。